

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 秀之	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	H26年度より授業を担当し、熱生研や瀬底研究施設の教育内容をPRする。公開臨海臨海実習を始めとした臨海実験所としての野外実習プログラムなどに積極的に貢献する。			0.20	修士課程および博士課程の学生へサンゴ礁生物およびサンゴの病気に関する授業を行った。公開臨海実習(東大との共催)および国際合同野外実習(台湾大学他との共催)を行った。		
研究	0.50	科学研究費(基盤C, 3ヶ年の2年目)の研究を計画的に遂行する。また、その他の競争的外部資金の獲得にも努める。赴任後に取り組み始めた研究を論文にする。			0.40	科学研究費(継続, 基盤C)および競争的外部資金(プロナチュラ)を獲得して研究を実施した。国際誌2報(筆頭1)を発表し、国際学会および国内学会でサンゴの病気に関する口頭発表を行った。		
社会貢献	0.05	熱帯生物圏研究センター職員として、および瀬底研究施設職員として様々な社会貢献活動に貢献する。			0.10	施設の見学等はできるだけ対応した。研究内容の紹介あるいは依頼された監修等への協力を行った。その結果、新聞やテレビ等マスコミを通してセンターや施設の広報に貢献した。日本サンゴ礁学会の評議員として活動した。		
管理運営	0.20	瀬底研究施設の管理運営に施設長(予定)として取り組み、平行して施設教職員との連携を深める。			0.25	前施設長のアドバイスを受けながら新施設長として、瀬底研究施設の管理運営に取り組んできた。管理棟の建替という大きなイベントもあった。施設職員のサポートもあり、順調にこなすことができ、また連携も深まった。		
進路指導	0.05	施設を利用する学生へ、教育研究だけでなく進路指導を含めたアドバイスをコメントをする。			0.05	学内の学生および施設を訪れた共同研究者の学生と懇談し、進路等に関する話を聞いたり、アドバイスを行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		守田 昌哉	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	大学院授業および臨海実習において内容の濃い、学生の満足度の高い講義および実習になるように心がける。		0.20	公開実習や学部生および院生向けの講義を行った。	
研究	0.30	専門分野に関する論文を二本出版する。大型予算獲得のために共同研究を積極的に行う。		0.30	専門分野に関する論文を5本出版した。また共同研究もスタートさせた。	
社会貢献	0.10	学会の委員を行う。依頼があれば、雑誌のレフリー、エディターも行う。		0.10	学会の委員(動物学会 将来計画委員)を行った。また国際紙のrefereeを行った(J.exp biology, Mol. Rep. Devなど)	
管理運営	0.10	施設の維持管理に努める。故障機械の修理や維持などには特に気を配る。		0.10	実験機器の維持管理に努め、修理機器の迅速な対応を心がけた。	
進路指導	0.30	学生の求める研究テーマを丁寧な指導で自立的に行えるようにする。		0.30	学生指導を丁寧に行い、自立的に研究を行えるように指導を行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井一彦	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	受入教員となっている、タイ人学振論博研究者の、博士学位取得を目指して指導を行う。研究室に、理工学研究科ダブルディグリープログラムの、博士前期課程のインドネシア人大学院生が1名所属しているので、期限内での学位取得修了を目指し、教育を行う。			0.20	受入教員となっている、タイ人学振論博研究者の、博士学位取得を実現した。研究室に、理工学研究科ダブルディグリープログラムの、博士前期課程のインドネシア人大学院生の、期限内学位取得修了を実現した。		
研究	0.40	サンゴ礁の生態および保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験で推進し、年度内に5編の学術論文を査読ありの雑誌に出版または受理されることを目指し、研究を行う。人為的環境変化とサンゴに関する課題で、平成27年度に科研費基盤A一般の採択を目指す。			0.35	サンゴ礁の生態および保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験で推進し、度内に7編の学術論文を査読ありの雑誌に出版した。人為的環境変化とサンゴに関する課題で、平成27年度に科研費基盤B一般に申請した。		
社会貢献	0.10	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会などを引き受ける。国や県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、可能な範囲で引き受ける。			0.05	沖縄県等のサンゴ礁保全関係等の委員会の委員を、可能な範囲で引き受けた。		
管理運営	0.30	熱帯生物圏研究センター長として、センターの管理運営を統括し、センター内での研究教育環境の整備を目指す。また、瀬底研究施設の運営にも積極的に参加する。			0.40	熱帯生物圏研究センター長として、センターの管理運営を統括し、センター内での内規などの整備を行った。また、瀬底研究施設の運営にもに参加した。		
進路指導	0.00	(該当学生なし)			0.00			
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		徳田 岳		所 属		熱帯生物圏研究センター		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	「分子生命科学入門」を通じて、共通教育に参加する。また、理学部および理工学研究科専門科目の講義・実習を通じて理学部学部生ならびに理工学研究科大学院生の教育にも携わるとともに、大学院生の教育研究指導を行う。				0.25	「生命科学入門」を通じて、共通教育に携わった。また、理学部専門科目の講義および実習を担当し、理学部学生の学部教育にも携わった。さらに大学院理工学研究科博士前期および後期課程の講義を担当するとともに、大学院生の研究指導を通じて大学院教育に携わった。				
研究	0.30	学内外の共同研究者と共に最低1報の研究論文の採択を目指す。競争的研究資金など外部資金の獲得を目指し、研究環境の整備・充実を図る。				0.30	平成26年度は査読付き原著論文3報、日本語報文1報を発表した。研究成果の一部は科学新聞でも報道された。また、外部資金獲得に関しては科研費2件と助成金を1件獲得した。通常の学会発表に加え、国際社会性昆虫学会や日本生物工学会年次大会ではシンポジウムで招待講演も行った他、海外学術調査や学振の特定国派遣研究者としての国際学術交流活動も実施した。				
社会貢献	0.10	ホームページや市民公開シンポジウムを通じて、地域への情報発信を行う。学会役員等としての活動を行い、地域社会への大学や研究機関における研究成果の還元に貢献する。				0.10	熱生研の公式HPの維持管理を行うと共に広報委員長として、熱生研の活動を地域社会に情報発信した。また、市民公開シンポジウムに参加してポスター展示を行い、地域への情報発信を行った。さらに、日本蚕糸学会九州支部委員として活動した。				
管理運営	0.30	分子生命科学研究施設のレイアウト委員や熱生研広報委員として積極的に管理運営に努める。また、全学の化学物質管理体制の確立に向けて活動する。さらに、熱生研の遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者および全学安全委員会委員として、適切な組換え生物等の管理を実施する。				0.30	分生研のレイアウト・施設公開実行委員、熱生研広報委員長として活動した。また、全学の化学物質管理専門部会の委員や遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として化学物質や組換え生物の適切な管理に努めた。				
進路指導	0.05	大学院生より進路に関する相談があった場合には、随時相談に乗るなどして適切な進路指導を行う。				0.05	随時大学院生の進路相談に乗り、適切な進路指導に努めた。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩崎公典	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	学部担当科目(遺伝子の話)の講義の一コマを担当する。研究室の学生の指導に関しては、留学生の比率が大きくなっていることから、出来る限り英語による教育、指導を心がける。特に博士課程の学生に対しては、論文投稿に係る指導を行う。			0.10	学部担当科目に関しては、レポートの内容から、概ね適切な講義が行えたものと判断している。研究室の学生指導に関しては、留学生を含め適切な指導を行えたものと考えている。		
研究	0.50	現在まとめている研究成果を学術誌に投稿する。また、国際学会での報告発表を行う。現在進行中の研究は新たな研究領域への発展が期待できるため、関連の競争的外部資金の獲得を目指す。			0.60	研究成果は共著者として投稿中である。国際学会での報告には至らなかった。科研費の採択には至らなかったが、同領域に関連した共同研究資金を、企業(3件)および県(3件)から獲得した。		
社会貢献	0.10	共同研究を通して、専門技術を要する動物実験による機能性評価や活性測定などを行い、企業製品の付加価値の向上を技術面からサポートする。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域に公開する。			0.15	企業や、県組織をふくむ外部組織との共同研究を通して、機能性食品の高付加価値化に貢献した。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果の概要を広く地域にアピールした。		
管理運営	0.10	全学情報システム運用委員会技術責任者および技術担当者として活動する。センター共通分析機器(主に質量分析装置、共焦点レーザー顕微鏡)の運用責任者として活動する。			0.05	所属施設の全学情報システム運用委員会技術責任者および技術担当者として活動した。センター共通分析機器の運用責任者として活動した。		
進路指導	0.05	当該年度で博士課程最終年度の学生に対して、学位取得に向けた細やかな指導を心がけ、過剰な精神的圧力にさらさないよう心がける。家族と来沖している留学生が複数人居るため、適宜休日を振り替えるなどの柔軟な対応を心がける。			0.10	博士課程最終年度の学生の学位取得に向けた指導を心がけた。留学生の指導では、論文投稿などの成果があがっており、またプライベートとの両立に関しても相談しやすい環境が構築できていると思われる。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		渡部 久実	所 属		熱帯生物圏研究センター
職 名				教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	非常勤講師としての医学部の授業科目(寄生虫学講義・実習、免疫学講義)の一部を担当し、CBT(Computer Based Testing)の基準を満たす講義を行う。また、医学部の協力講座として4年次学生の基礎研究を担当する。大学院医学研究科博士課程講義(実験動物概論、感染生物学概論、感染免疫制御学特論、感染免疫学演習、感染免疫学実習)では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている基礎科学研究を重視し、地域特性を踏まえた普遍的意義の高い研究の一端を担ってもらう。		0.20	基礎教育科目、医学部及び医学研究科の講義・実習では、目標どおりの成果を挙げたものと考えられた。また、医学部学生3名の基礎配属研究(4年次学生、3週間)をも担当し、基礎研究、特に熱帯感染症制圧の重要性を認識してもらった。すでに当該分野での履修を終えた学生からは高い評価を受け、下級生にも履修を勧めたとの話を聞くことができた。当該分野所属の1名の博士課程大学院生(D4)は、家庭の事情があり数か月のブランクもあったが「感染免疫と栄養」に関する学位論文の最終まとめに取り組むと共に、当該分野の他の研究課題をも分担し着実な成果を積み重ねてもらった。
研究	0.40	ポスドク研究員、大学院医学研究科博士課程の学生及び共同研究者(琉球大学及び他大学)と共に、研究成果の海外学術雑誌への投稿・採択及び関連ある国内外の学会での発表を行う。現在、数編を投稿準備中である。当該教員の研究分野は海外フィールドを用いての研究が主体となっていることから、国内外の研究者との連携を強固にし、研究を遂行する。関連する分野の外部資金については、教員が在職最終年度であることから、沖縄県及び民間企業からの短期あるいは共同研究としての資金獲得を目指す。		0.40	当該分野及び共同研究の成果としては、国際雑誌への掲載はなかったものの、2編(最終著者)を再投稿中であり、1編(最終・責任著者1編)を投稿準備中である。特に国際共同研究(東南アジアのマラリアとHIV/AIDSの制圧)に関する成果は、国際学会・シンポジウム(メキシコ、ラオスで各1題)と国内学会(4題)で共同演者として発表を行った。
社会貢献	0.30	研究のメインテーマでもある国際共同研究課題「マラリアとHIV/AIDSの制圧」については、中期目標に掲げられている国際社会への積極的な貢献するために、東南アジア諸国(ベトナム、ラオス)との共同研究を進める。このような国際連携については、文部科学省の長崎大学熱帯医学研究拠点特定領域共同研究、平成26年度沖縄県「沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業」及び平成25年度採択の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)の分担研究者として積極的に参加し、国際医療貢献ネットワーク構築に努める。また、琉球大学発のベンチャー企業の代表取締役として、琉球大学、国立国際医療研究センター研究所、京都薬科大学との産学連携活動をも推進する。		0.30	本年度の国際共同研究課題(マラリアとHIV/AIDS制圧)に関しては、ラオス国首都ビエンチャン市とベトナム国クワンチ省に各1回訪問し、保健省・県(省)保健局での研究打ち合わせと現地での調査・研究を実施した。また、最終年度となる平成26年度沖縄感染症医療研究ネットワーク基盤構築事業である「ワクチンおよびアジュバントの研究ネットワーク活用型研究開発」の分担課題「国際医療貢献を目指したアジア地域での研究ネットワーク基盤構築」を担当し、その研究成果を積み重ねてきた(国内共同研究機関は国立国際医療研究センターと京都薬科大学)。
管理運営	0.05	医学研究科学務委員会、琉球大学動物実験委員会及び琉球大学利益相反マネジメント委員会の委員として、各委員会活動に積極的に参加する。また、熱帯生物圏研究センターの一員として、当該センターの管理・運営・広報活動に努める		0.05	大学の管理運営に関しては利益相反委員会委員としての貢献を行った。兼任する医学研究科では学務委員会において、新しい講座の設置・カリキュラム編成、医学研究科説明会の開催や大学院入試に関して取り組んだ。また、熱帯生物圏研究センターの教員選考規定の作成にWG世話人を務めさせていただいた。
進路指導	0.05	大学院博士課程学生には、昨年度より導入されたインターンシップ制度を活用し、研究を通して将来の進路に具体的に組み始めるように指導すると共に、琉球大学大学院博士課程学術研究優秀者やティーチングアシスタント・リサーチアシスタント雇用等への申請を積極的に進める。		0.05	所属する大学院生の家庭事情を考慮すべく、学生への経済的援助や研究環境の整備等に積極的に取り組んだ。その結果、ティーチングアシスタント・リサーチアシスタントとしての雇用を確保でき、また、医学部からの研究経費配分を受けることができた。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成26年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高相 徳志郎	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育(理工学研究科)に参加し、亜熱帯植物の特徴を講義に取り込む。 ・学生から講義内容の希望を聞く。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・達成できたと考えている。 	
研究	0.65	<ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも2編の論文を学会誌へ投稿 ・外部資金の獲得に努める。 		0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・論文は投稿できていない。 ・自然保護助成基金から助成金を受けた。 	
社会貢献	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の各種調査、研究会等へ積極的に参加する。 ・小中学校・高校で様々な形態の出前授業を行う。 ・地域住民(一般)を対象に、植物学の授業を行う。 		0.65	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の各種調査に参加した。 ・中部農業高校で出前授業を行った。 ・植物学の授業をはできていないが2月から行う予定。 	
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯生物圏研究センターの運営に関する職務(教員選考委員会への参加等) ・理工学研究科に付随する運営職務 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・研究科会議参加を除いて達成できたと考えている。 	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内貴 章世	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.10	<ul style="list-style-type: none"> 西表研究施設において担当する予定の集中講義・実習において、生物多様性の理解を効果的に促す指導を行う。 大学院指導資格審査(理工学研究科)を受ける。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> 学内担当の2講義に関しては独自の資料を作成・配布し、昨年度と比較してより効果的な講義ができたと考えている。 学外の野外実習を2大学各1講義担当した。ここでも相手大学教員と協力して効果的な講義ができたと考えている。 大学院指導資格審査は来年度に申請することとした。 	
研究	0.60	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金による研究を推進する。 国内外の研究者との共同研究を行う 学会、学術誌において研究成果を発表する。 外部資金獲得に取り組む。 		0.60	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金による研究が3つの植物種で推進できた。 3つのテーマに関して、国内の研究者との共同研究を進めることができた。 4件の研究成果を学会で報告し、1編の論文(共著)が査読付き学術誌に掲載された。 新たな外部資金獲得に向けた取り組みを行うことができた。 	
社会貢献	0.20	竹富町、公民館、西表野生生物保護センター等と連携した外来種対策、希少種保護の取り組みを進める。		0.15	林野庁および西表野生生物保護センターと連携した外来種対策、希少種保護の取り組みを進めることができた。	
管理運営	0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たす。		0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たすことができた。	
進路指導	0.00			0.00		
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡辺 信	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.15	西表研究施設における長期集中講義及び実習を3つ実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促す。(1)サイエンスの中心より広がるユニバース(教育)の中における熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。			0.15	教育目標は二項目とも概ね達成した。(0.13点)		
研究	0.45	(1)科研費(B)研究の円滑な推進。(2)IF付き国際学術誌にファースト若しくはコレスポンディングオーサーとして研究論文を3本執筆する。(3)競争的外部資金の新規獲得。(4)今年度実施する2つの共同利用研究並びに国内客員研究員との共同研究の円滑な推進。			0.45	(1)海外出張業務が増えたことにより、科研費研究に遅れが生じた。(2)コレスポンディングで1本、主著で3本、共著で2本のIF付き国際学術誌に投稿した。(3)科研海外学術B、メンターとして科研奨励研究に応募した。(4)共同利用研究は概ね目標を達成した。(0.4点)		
社会貢献	0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁関連委員会の委託委員。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応。			0.10	林野庁の委託委員、竹富町への各種協力活動、Peer Reviewへの協力を行い、SSH対応三件に加え、予定外の研究調査にも積極的に協力した。(0.9点)		
管理運営	0.30	施設今年度予算計画及び運営の円滑な実施。長年放置されてきた老朽箇所の修繕及び廃棄物の廃棄。			0.30	施設運営は概ね良好に進められたが、利用者増加に伴う光熱水料金の上昇が著しいため、来年度以降の省エネ化と予算作成段階での対策が必要。懸案であった大型トラックの更新及び作物調査室の改装を進めることが出来た。(0.25点)		
進路指導	0.00	指導対象者無し			0.00	指導対象者無し		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山平 寿智	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	博士前期過程(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)の講義をそれぞれ開講する。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行う。特に、主指導をしている学生2名(後期1名前期1名)に対しては、適宜個別面談による研究指導も行う。		0.20	博士前期過程と博士後期過程の講義をそれぞれ開講した。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行った。主指導の博士後期課程の学生1名および特別プログラム博士前期課程の留学生1名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行った。	
研究	0.40	科研費による研究を実施し、学術誌等での論文3編、学会発表5件を目標に成果発表を行う。これと並行して、国立遺伝学研究所との共同研究の成果も学術誌に発表する。また、鹿児島大学との共同研究を新たに開始する。		0.40	科研費による研究を実施し、国際誌6編、国内誌2編、および学会発表1件の成果発表を行った。また、国立遺伝学研究所、福岡女子大学、および名古屋市東山動物園との共同研究を継続すると共に、鹿児島大学との共同研究を新たに開始した。日本生態学会九州地区委員の任も遂行した。	
社会 貢献	0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れると共に、先方との窓口的業務を行う。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスを行う。		0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れた。インターンシップでは各校との窓口的業務も行った。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスも行った。名古屋市立東山動物園の特別展の監修、ならびに報道発表用の資料提供も行った。	
管理 運営	0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として部局の管理運営に携わる。また、熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行する。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行する。		0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として施設長懇談会に参加し、部局の管理運営に携わった。また、熱生研全学委員として付属図書館運営委員会と研究推進戦略連絡委員の任を遂行した。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行した。	
進路 指導	0.05	博士後期課程3年の学生は、学位論文をまとめさせることを優先させる。特別プログラムの留学生に対しては、博士研究の指導を行うと共に、母国の大学を訪問する等して帰国後のアカデミックポジションへの就職支援を行う。		0.05	博士後期課程の学生には、学位論文をまとめさせつつ、日本学術振興会のPD受け入れ先について適宜相談に乗った。特別プログラムの留学生に関しては、採集調査の折りに母国の出身大学の教員を訪問して、帰国後にアカデミックポジションへに就ける可能性について問い合わせなどもした。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松崎 吾朗	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.20	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義と研究指導を実施する。医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行う。学外においては、非常勤講師として講義を行う。共通教育では、「遺伝子の話」を分担し、教養の生物学教育に参加する。		0.20	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施した。医学部の免疫学および細菌学の講義を分担することにより、感染症制御に関する教育を行った。学外においては、非常勤講師として、島根大学医学部の講義を行った。共通教育では、「生命科学入門」を分担し、教養の生物学教育に参加した。2月には、佐賀大学大学院医学研究科の非常勤講師として講義を行う予定である。	
研究	0.40	自らの研究テーマについて研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し一流専門誌への採択を目指す。また、学会における研究成果の発表と討論により、研究者間の情報交換を行い、それによる研究の改善を目指す。研究経費については、すでに獲得が決定している科学研究費補助金による研究を継続するとともに、他大学との共同研究経費、企業との共同研究経費の獲得を目指す。		0.40	自らの研究テーマである感染免疫について研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し、現在審査結果を待っている。また、もう1編については現在執筆中であり、本年度中に投稿予定である。また、日本生体防御学会における発表、日本免疫学会におけるワークショップの座長などを通じ、研究成果の発表と討論による研究者間の情報交換を行った。研究経費については、すでに獲得が決定している科学研究費補助金による研究を継続するとともに、長崎大学との共同研究経費、2企業との共同研究経費を獲得した。	
社会貢献	0.10	学外の遺伝子組換え生物等使用安全委員会および病原体取扱安全委員会に参加し、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献する。		0.10	沖縄科学技術大学院大学のバイオセーフティー委員会に委員長として参加し、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献した。日本生体防御学会理事、日本免疫学会評議員、日本細菌学会評議員、日本細菌学会九州支部会評議員として、学会活動に参加した。	
管理運営	0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献する。また、熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営に積極的に参加する。		0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献した。熱帯生物圏研究センター分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営に積極的に参加した。研究推進戦略会議(研究推進会議)の構成員として、大学の研究推進に貢献した。	
進路指導	0.00			0.00	本年度は進学・就職する学生を担当しないため、該当しない。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新川 武	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	共通教育科目「生命科学入門」の講義の一部(エビジェネティクス)を担当し、学部学生が遺伝学や遺伝子・タンパク質工学に対する興味をもてるような講義をする。また、その講義を受けた学生が、生命科学に興味を示し、大学院進学を志すよう努力する。共通教育科目以外では、研究および原著論文講読会(Immuology Journal Club)ならびに免疫学テキスト講読会をつじた教育訓練を施す。医学研究科から基礎配属の実習生を受け入れ、研究現場での実践的な実験作業を経験してもらおう。また、外部資金で雇用している特命研究員、ポスドク研究員、技術補佐員に対しては、独立して研究や実験ができるよう、実験手技的なアドバイスだけでなく、原著論文、競争的資金獲得に向けた研究申請書、報告書等の書き方も適宜指導する。原著論文、HPその他英語による情報発信ができるよう英語教育にも力を注ぐ。			0.20	共通教育科目「生命科学入門」の講義の一部(エビジェネティクス)を担当し、学生が遺伝学や遺伝子・タンパク質工学に対する興味をもてるような講義をした。講義を受けた学生が、生命科学に興味を示し、大学院進学を志したかどうかは不明であるが、引き続き努力する。原著論文・総読講読会(Immuology Journal ClubやVaccine Journal Club)を開催(参加)し、データの読み方などを議論することで教育訓練を施した。医学研究科から基礎配属の実習生を受け入れることで、ワクチンに関する講義と実験作業を経験してもらい、研究現場を体験させることができた。また、外部資金で雇用している特命研究員、ポスドク研究員、技術補佐員らに対し、実験手技的なアドバイスだけでなく、原著論文、競争的資金獲得に向けた研究費申請書・報告書等の書き方も適宜指導した。しかし、英語教育に対する努力は十分であったとはいえない。今後の課題としたい。		
研究	0.35	研究面ではサブユニットワクチン開発のための技術基盤構築を目指す。特に、天然物ライブラリーから免疫賦活機能性物質(アジュバント)を探索し、ワクチン開発とつなげる努力をする。今年度は、特に、アジュバント探索研究とヒト用ワクチン開発ならびに家畜用ワクチン(動物用医薬品)の研究開発を産学連携体制で推進する。また、それをつづいて原著論文、学会発表、知的財産権獲得等(可能な限りPCT出願)をつじた有形、無形の研究成果物へ繋げる努力をする。さらに、科学研究補助金(基盤研究(C))、その他、地方自治体ならびに農林水産省など他省庁からの競争的資金を獲得し、ワクチン学の推進のために一層努力する。さらに、感染症研究関連の国際共同研究ネットワーク(特にタイ国マヒドン大学)に参画する。			0.40	組換えサブユニットワクチンの研究は飛躍的に前進した。特に、豚及び鶏の家畜用ワクチン(動物用医薬品)の研究開発は実用化段階に入った。これらは既に国際特許申請まで進めたものも存在する。また、その成果に基づき、ワクチン効果を評価するための体外診断薬の開発や感染症診断薬の開発にも着手することができた。さらに、アジュバントの研究面では、天然物から多くの候補物質を見出すことに成功し、また、ある特定の物質の免疫学的作用機序解明(受容体の同定等)に一部成功した。これらの成果は特許申請済みであるため、今後、学会・論文発表していく。研究費獲得面では、文部科学省科学研究補助金(基盤研究(C))への申請はもちろんだが、その他、農林水産省等の競争的資金、民間共同研究費並びに地方自治体の補助金・助成金等の予算申請を積極的に進め、現時点で3件程度の新規事業予算の獲得に成功している。また、感染症研究関連のネットワークづくりの面では、第2回日経アジア感染症会議に招待されるなど、今後も継続して進めていく素地ができあがりつつある。		
社会貢献	0.25	研究内容を学会、セミナー、市民公開講座、各種HP、年報、オープンキャンパス、施設公開等を利用して幅広く宣伝することで、地域社会へ科学技術の重要性を伝える活動に積極的に参加する。また、今年度で9年目を迎えるパイオベンチャー企業とのレンタルラボを介した共同研究活動では、科学技術顧問として学術および技術面から支援し、沖縄のパイオ産業と科学技術振興に貢献すると同時に動物用医薬品の開発をより一層推進する。文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として国の科学技術の動向に対する意見書等を提出することで我が国の科学技術の進展にも寄与する努力をする。日本寄生虫学会の評議委員として働く。			0.20	目標どおり、学術集会での一般公演やシンポジウム、セミナーだけでなく、市民公開講座、各種HP、年報、オープンキャンパス、施設公開等を介して、研究内容だけでなく、一般市民が必要としていると思われる各種情報を広く公開することができたと考えている。また、レンタルラボでの共同研究活動では、科学技術顧問として学術及び技術面でできる限り支援し、沖縄のパイオと科学技術振興に貢献する努力を怠らなかった。動物用医薬品の開発をより一層推進したことは上述したとおりである。また、文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員としてできるだけその活動に参加した。日本寄生虫学会及び南日本支部会の評議委員としての活動にも参加した。		
管理運営	0.10	熱帯生物圏研究センターおよび分子生命科学研究所施設の管理運営が滞りなく進むようGLと協力して組織運営に携わる。それによって、熱生研の研究教育活動が発展するよう努力する。			0.10	熱生研及び分生研の管理運営が滞りなく進むよう、GLと協力して組織運営に携わった。特に、各種委員会(教員選考委員会やワーキンググループ等)の委員として活動した。また、学内の委員(発明審査委員、動物実験安全委員等)も務めた。		
進路指導	0.10	研究室所属の大学院生、ポスドク研究員の進路について指導、助言し、国内外の研究者とのネットワークに参画させることで就職の糸口を見つけることができるよう努力する。また、必要に応じて他の研究室所属の大学院生等に対しても適切なアドバイスを与えるよう心がける。			0.10	研究室所属のポスドク研究員の進路について指導・助言し、国内外の研究者とのネットワークに参画させることで就職への糸口を見つけることができるよう努力したが、まだその成果は現れていない。ただし、技術補佐員一名は、ある医療機関の技術職(研究ラボ)に任期なしの待遇で職を得ることができ、それはワクチン研究を現場で支えてきたこれまでの実績が高く評価された結果であると伝えられた。必要に応じて他の研究室所属の大学院生等に対しても適切なアドバイスを与えるよう心がけたが、まだ十分な成果は現れていない。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		新里 尚也		所 属		熱帯生物圏研究センター		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.10	共通科目「遺伝子の話」について、講義内容の見直しを行い、図表等を多様したわかりやすい講義を実施する。講義のアンケートで理解度を評価し、全く理解できなかったとする学生が極力でない講義を目指す。				0.15	共通科目「遺伝子の話」については、年度途中で退職された教員の分も担当することとなった。理解度のアンケートは65%程であり、さらに向上させたい。さらに工学部環境建設工学科において「環境衛生工学」を担当し、学部教育へも貢献した。				
研究	0.65	自らが執筆する共著論文2報以上の投稿を目指す。また研究資金面では、積極的に競争的資金への応募や共同研究に参画し、1件以上の外部資金獲得を目指す。				0.60	自らが執筆する論文の投稿は1報であったが、その他の共著論文が2報掲載された。研究資金は、科学研究費補助金(新学術領域研究)を1件、共同研究を1件獲得した。				
社会貢献	0.10	研究事業やインキュベーション施設の運営・推進委員として沖縄県の科学技術振興に貢献する。また、次世代シーケンサーの技術交流会をととして沖縄県のゲノム研究レベルの向上に寄与する。その他、インターンシップの受け入れ等を通じた地域社会への貢献も積極的に行う。				0.10	知的クラスター事業の推進委員、またインキュベーション施設運営委員として、沖縄県の科学技術振興に貢献した。また、次世代シーケンサー技術交流会の世話人として、ゲノム研究レベルの向上に努めた。熱生研の市民公開講座で微生物資源に関する研究を紹介した。本年度のインターンシップ受け入れはなかった。				
管理運営	0.10	地域貢献推進委員や危機管理対策委員として大学運営に貢献する。また、レイアウト委員やオープンキャンパス準備委員としての仕事を通して、分子生命科学研究所施設の管理運営に積極的に参加する。ギガシーケンサーの機器運用に関わり、円滑な解析に貢献する。				0.05	次世代シーケンサーについては、機器トラブルが若干あったものの、年間とおして安定した解析が実施することができた。また、亜熱帯研究推進機構に関する機器整備WGの委員として、新規次世代シーケンサーの導入に主導的に関わった。オープンキャンパス(施設公開)はほぼ例年並の参加者を記録した。				
進路指導	0.05	担当する学生の進路決定に積極的に関わり、本人の希望と適正に合った就職、進学先へ進めるように、卒業研究のスケジュール管理も含めて努力する。				0.10	環境建設工学科土木コースより卒研生1名を受け入れ、卒業研究の指導を行った。公務員試験への受験を配慮して年度前半の卒研スケジュールの調整を行い、国家公務員一般職試験に合格した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			